

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	34
施設名	葛飾区小菅東保育園
施設所在地	葛飾区小菅3-10-32
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触遊び

<テーマの設定理由>

・園の施設（環境）が様々な感触遊びを経験できることから、テーマを【感触遊び】とした。
・普段から、様々な感触のある遊びを楽しむ姿が見られていた。
・感触遊びは五感を刺激し感覚を豊かにすることで、感触の変化を楽しみながら感触を理解し、面白さに気がついたり、五感を養うこと、手先の器用さの向上、想像力と創造性、集中力を高めるなど成長発達を促す。子どもたちの普段からの感触遊びの興味・関心がある様子や上記の様々な内容を鑑みてテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマ決定
令和7年6～7月：必要物品準備、実施スケジュール予定計画作成
令和7年7～12月：実施
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂場【どろんこ】、プール【水】、プールサイドやベランダ【水遊びでの水】、室内【小麦粉粘土、スライム、粘土など】プールサイド【片栗粉【ダイラタンシー】築山【山の土利用しての泥団子】など。

環境設定として、感触遊びのテーマに合わせ、望ましい場所の確保と順番を決める。

⇒例えば、片栗スライムは1日目は大きいタライを使用し、プールサイドで『ダイラタンシー現象』。2日目は、室内にてその片栗スライムを使用し絵の具を足して手で触る感触遊びとするなど。

感触遊びの種類や年齢に合わせ、場所、必要な道具、素材を準備する。（洗濯のり、たらい、バケツ、トレー、片栗粉、小麦粉、絵の具、土など）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

6月…3～5歳児クラス【どろんこ遊び】

・1クラス（2回以上ずつ）計画的に砂場を利用し、どろんこ遊びを楽しめるようにしたことで回数を重ねるごとに感触を楽しみダイナミックに遊ぶ。

7～8月…0～5歳児【水遊び】、3～5歳児【プール遊び】

・暑い季節に、水を手や体で感触を楽しむことができ、涼を感じ気持ちよく過ごすことができていた。

6～12月…0, 1, 4歳児【小麦粉粘土】

・0, 1歳児は、感触に抵抗がある子が多いが経験（回数）を重ねることで感触を楽しむようになった。

10月…2～5歳【ダイラタンシー現象/片栗粉スライム】

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【どろんこ】

はじめは控えめに水を入れ、手で触ったり足で踏んだりして感触を楽しむ。シャベルですくってバケツに入れていく。だんだんと水を多く運びはじめ、「池だ」「川が出来た」と喜ぶ。控えめに触っていた子どもたちだが、おしりをついて座り泥の池に浸かる子があらわれ、「冷たくて気持ちいい！」と言うと周りの児も大胆に泥に入り始めた。

【水遊び・プール】

「気持ちいい」「もっと遊びたい」なども声や笑い声が多くあった。慣れてくると「もっとお水かけて」などの言葉もあった。（0～5歳児）

【小麦粉粘土】

幼児は「早くしなきゃ」と水を粉と練り合わせる。「焼いたらパンになる」「茹でたらうどん」と教えると「じゃあ、揚げたら?」「じゃあ、オーブンしたら?」と興味がわいていた。

【片栗粉スライム】

5色の片栗粉スライム、感触を楽しみながら好きな色を選択し遊び始める。「私のあげる」と色交換が始まり「綺麗な色だよ」と最後は色の変化を楽しみ終わった。

【ダイラタンシー】

「握ると固まる」「ドロ～って楽しい」と感触の変化を面白がっていた。足では「ボコボコしてる」「沈んじゃう」と足が取られる感触を感じていた。保育者の促しで「走ると沈まない」ことも知る。「なんでどろっとするの?」「握ると固まるよ」「足を動かすと沈まないのに」「沈むのが面白い」と各々楽しんでいる様子であった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【どろんこ】

一度経験したことで、楽しみにするようになる。最初から水たまりを作り足を沈めたり、ジャンプをし、水しぶきを上げるなど大胆に感触を共感できることで楽しさも共有できてみんな楽しんで様子が見られた。

【水遊び・プール】

暑い中で、水の感触の気持ち良さを存分に感じていた。日に日に遊び方がダイナミックになっていった。(0～5歳児)

【小麦粉粘土】

0, 1歳児は、回を重ねても感触が苦手に参加することができない子が見られた。水の含め方で感触が変わるが、その違いに気が付く子も見られた。幼児は固さの違いで形作るものを考える姿が見られた。

【片栗粉スライム】

片栗粉でのスライムは手で触っていると水分が蒸発し、次第に固くなっていった。その変化も楽しむことができるように子ども達の変化の気づきに、一緒に驚いたり考えたりして共感していく。

【ダイラタンシー現象】

2人または1人で入るのが適している。3人は足が取られるため、友だちをつかみ倒れたり危険であった。大人が側に立つ。たらいは滑ったり体勢を崩しやすいよう保育者がそばについて活動をした。

【泥団子】

機会を逃してしまい、じっくり取り組めなかったので、次年度は取り組んでいきたい。